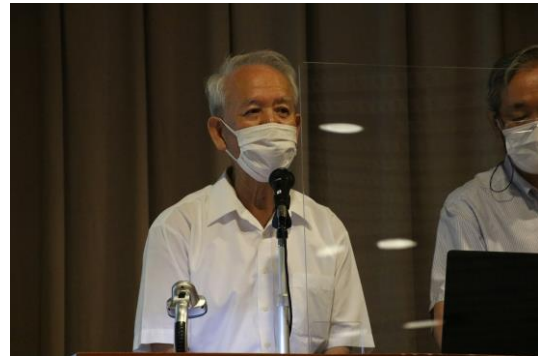


坂本交番友の会（岐阜県）

皆さんこんにちは。岐阜県中津川市から来ました、坂本交番友の会でございます。よろしくお願いいたします。

まず私たちが活動している地域について紹介させていただきます。岐阜県中津川市は、岐阜県の南東部に位置しまして、東に中央アルプス、南に恵那山、北西に御嶽山ということで、車で30分ぐらいの所には日本三名泉に指定されている下呂温泉がございます。四季折々に大変自然豊かな地域でございます。



坂本交番友の会

令和3年6月26日（土）

活動地域の紹介

1、坂本地区の位置
岐阜県の南東部に位置し、美濃平野に接しています。リニア新幹線岐阜駅、駅の建設が決定しています。本曹川が流れ豊富な自然に恵まれた地域です。

2、坂本地区の人口
- 総人口は12,000人 - 岐阜県4,000位

3、学校、幹線道路や商業施設等の地域的な特徴

坂本地区の学校	
坂本小学校	276人（令和2年度） 868人（平成22年度）
坂本中学校	396人（令和2年度） 392人（平成22年度）
岐阜県立工業高校	442人（令和2年度）

活動地域の紹介

- 坂本地区の北部は、本曹川が流れ田圃風景が広がり稲作・夏秋なす・イモ等の栽培が行われています。リニア新幹線の車両基地や通勤駅、新自動車道の建設が決定しています。
- 中央部はかつては岐阜中央線の美乃坂本駅を中心に百貨街が発展してきました。坂本小学校、坂本中学校、農や中津川工業高校、坂本交番等があり、数年後に美乃坂本駅に併設してリニア新幹線の岐阜駅が建設されます。
- 南部の根ノ上山周辺は東濃ヒノキの山林や保田ノ湖等があり、その際には国道19号線、中央自動車道がほしり、国道19号線公認には大型スーパー、ホームセンター、自動車会社のディーラーがあります。
- 工業団地、運動公園、東濃ふれあいセンターがあり、市民の働く場所と東濃歌舞伎など伝統芸能・スポーツ活動の拠点になっています。

坂本の歴史など

- 坂本地区は大字千旦林地区と大字茄子川地区に分かれています。
- (1) 千旦林
北部は明治以前開拓が行われ農地が増え、戦後も農地造成や国産雑穀専業が行われた農村地域です。戦前は陶器街を中心に発展してきました。現在、多くの事業所が建設されています。
- (2) 茄子川
茄子川は明治時代には陶器が盛られ、特に成瀬謙吉氏の制作の塩瓶門（茄子川焼き）は、明治26年アメリカシカゴで開かれた、シカゴ博覧会で銅賞を受賞しています。戦後は、瓦の生産がしばらく続いていた。
- また、日本最後の和時計師助利助が明治初期まで、和時計を改良し制作しました。
- 現在は、工業団地が造成され、市民の働く場所となっています。

私たちが活動する中津川市坂本地区は、面積 33.11 ㎢、人口が 12,800 人、5,000 世帯ということで、大変自然環境に恵まれた地域です。2027 年にはリニア新幹線の岐阜県駅が私達の地域、既存の JR 美乃坂本駅に併設してできるということで、今大変工事のほうで騒がしくなっていますが、本来静かな地域でございます。

地域の中には小学校、中学校、工業高校が1つずつございますが、特に小学校については、平成22年868人という生徒数がいまして、東濃第一の生徒数だということで、今現在100人近く減っておりますけれども、そういった小学校がございます。

団体の概要

坂本交番の会について

- 坂本交番の会とは、防犯・交通安全の推進
- 防犯パトロール活動の推進
- 交通安全の推進
- 防犯パトロール活動の推進

団体名 坂本交番友の会

代表 可知 忠勝

事務所 地域安全情報センター

構成員 69人 (坂本地区選出市議 4人
自治会役員 5人、一般会員 60人)

男女別 男性 60人 女性 9人

団体発足の沿革

〇 発足の経緯


平成 21 年 5 月 1 日に 51 名で発足

- 旧坂本交番の駐輪場は狭く、隣接する県道は交通量が多く、女性や高齢者のドライバーに不便な場所、長年、新築移転が多かった区民の要望で、平成 21 年 3 月に新築移転となりました。それが契機となり当時の区委員会が防犯ボランティアの募集を呼び掛け発足しました。

〇 活動目的

- 坂本交番等と連携し、坂本地区の安全・安心のまちづくを推進することを目的としました。

中津川工業高校生のMSリーダーズとの放置自転車撤去作業



先ほど紹介させていただきました坂本交番友の会で、事務所は地域安全情報センターという坂本交番の裏側に隣接しております。そこにありまして構成員 69 名。その中に地域から出ている市議会議員の方が 4 名入っていますが、女性 9 人、男性 60 人で構成されております。

団体発足の沿革

〇 活動開始の経緯

- 坂本交番に隣接した場所に「地域安全情報センター」が平成 21 年 6 月に設置し、そこを拠点に防犯パトロール活動を開始することになりました。発足当初は活動資金がないため、坂本地区の 1.8 の事業所から 351,500 円寄付金を受け貴重な財源となりました。
- 初年度は、子ども達が夏休みや冬休み期間中に防犯パトロール活動を行いました。

子どもの見守り活動



活動内容

〇 活動人員 69名

〇 活動頻度 毎月 11日

〇 総人数 632人

〇 具体的な活動方法

- ① 子どもの見守り活動
- ② 防犯パトロール活動
- ③ 防犯パトロール活動
- ④ 防犯パトロール活動
- ⑤ 防犯パトロール活動
- ⑥ 防犯パトロール活動
- ⑦ 防犯パトロール活動
- ⑧ 防犯パトロール活動

〇 他の機関 (警察や自治体) や団体との関わり

毎月開催の役員会・毎月開催の理事会に坂本交番長、坂本事務所長が出席し、情報の共有を行っています。その他、市防犯安全課、市防犯協会と連携し事業を行っています。

会員による一斉清掃



団体の発足でございますが、平成 21 年、今から 12 年前の 3 月に坂本交番が新築移転され、それを契機に当時の区長会が中心となって、防犯ボランティア会員の募集を呼びかけて発足しました。

活動の拠点を先ほど申しました交番に隣接した所に、地域安全情報センターというのを設けました。地域の地元企業から寄付を受けまして、その地域安全情報センターを拠点にして、交番と市、学校等と連携した防犯パトロールや子供の見守り活動を行いながら、活動をスタートさせました。

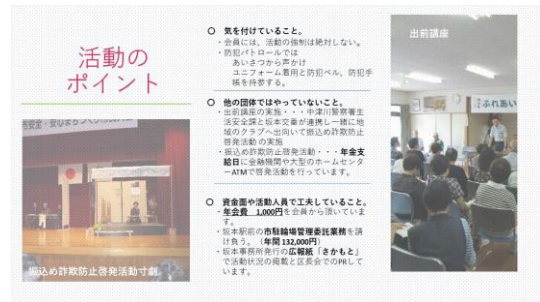
会の活動費は、会員から年会費を 1,000 円いただいて、それと駐輪場の委託管理費をいただきながら、活動費に充てております。

次に具体的な活動内容について、特に 3 点に絞って御紹介させていただきます。1 つは子供の見守り活動、それから防犯パトロール、それから振り込め詐欺防止啓発活動ということで絞って 3 点、具体的にどういう活動をしているのかを御紹介させていただきます。

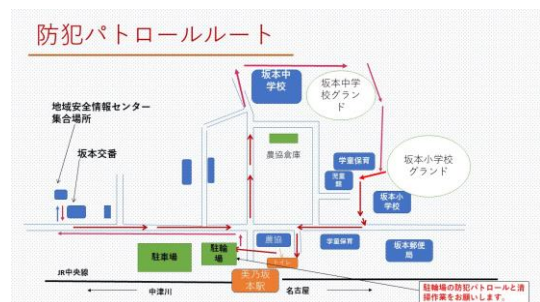
まず、子供の見守り活動でございますが、会員が今 69 名と言いましたが、その中で見守り活動を率先してやっていた方が 34 名おられて、子供の見守り隊を結成しております。活動は小学生を対象にして、始業式や春夏冬の長期の休みの前日、翌日などに、通学路の要所に立って見守りをします。その要所も事前に検討して通学路の中で、特に危険だということを選んでやっております。あるいは警察、学校からの不審者による声掛け事案などの情報を入手した場合に、子供見守り隊という連絡網ができていますので、そこに連絡を取って、次の日に見守り箇所を立てやります。その他交番からの要請があった場合、「こういう見守りを協力してほしい」あるいは「一緒にやってほしい」ということに対して対応しているというのが、子供の見守り活動です。子供の見守り活動中、これは子供たちが下校している時に、右のほうにグリーンの帽子とチョッキを着ている男性が見えますが、この人が隊員の人のということです。

次に、振り込め詐欺防止啓発活動の御紹介です。平成 21 年当時、全国的に振り込め詐欺事件が非常に多く発生しておりました。中津川も例外ではありません。高齢者を詐欺から守るということ

で、行政と協働して振り込め詐欺防止啓発活動を始動させました。坂本地域の金融機関、あるいは保護センターとかATMのある所に、年金支給日に朝30分ほど立って、啓発活動をやるということです。そこでチラシを配布しながら、そこに1日中、旗を立てて啓発をするということで、振り込め詐欺の寸劇なども披露しております。その左側にあるのが、振り込め詐欺防止啓発活動の寸劇をやっているところですが、そういったことでも啓発するというところでございます。



次にパトロールです。これが防犯パトロールの順路を書いたもので、赤い線が順路で坂本交番の横に地域安全情報センターというのがございます。そこで集合して、その赤印のように、農協の倉庫と坂本中学校を回って、グラウンドを通過、坂本小学校、学童保育、児童館、それからトイレを見て、駅の前と駐輪場という一周約30分～1時間、



今は午後4時から1時間位パトロールをしております。そこでまず気をつけることは、今パトロールは12班に分けて週3回やっておりますが、子供たちへの挨拶、それからチョッキを着てあるいは帽子を必ず身につけてやるということも徹底しています。それから防犯ベルと手帳を持参して、気づいた所をチェックする。書き留めて地域安全情報センターに戻った時に、ノートに記載しておくということです。そのノートを後から見て、改善点があればそれを市のほうへ、あるいは警察のほうへということで、フォローアップしながら改善を進めているということでございます。

以上が活動の3点ですが、あとは割愛させていただきました。その他に各関係団体との交流の様子を、少し紹介させていただきます。

警報発令想定引継ぎ訓練のサポートということで、小学校を中心にして大雨洪水警報が出たときに、親御さんに子供さんを引き継ぎするという訓練があります。そういう時の見守りに、私たち坂本交番友の会も参加しております。

それから、中津川工業高校にMSリーダーズというのがありますが、そういったMSリーダーズと協働して駐輪場の清掃なり、放置自転車の撤去ということもやっております。

続きまして、各種団体、機関との連携についてです。月1回、役員、坂本交番長、坂本事務所長が出席する連携会議を開催しています。ここで子供たちの登下校とか学校の行事、地区の犯罪情勢とかの情報交換をしながら、次の2カ月に1回ある理事会に持ち込む。理事会の理事は17名、会員から選んでおりますが、そこに持ち込んで、ディスカッションをします。あるいは情報交換をしながら共有するというところでございます。あるいは各種機関との連携については、地域安全大会というのが県も市もありますが、積極的にそれに参加しているということでございます。

視察もありましたので、視察の状況も紹介しておきます。岐阜県の警察本部への視察ということで、これは友の会が発足した当初、最初に参加した視察研修です。会員の防犯意識を高めるために実施しました。

それから、次に関係機関の団体からの視察ですが、岐阜県議会教育警察委員会というところから

の視察を受けております。私たちの坂本交番友の会は、子供の見守り活動ばかりではなくて、振り込め詐欺被害防止活動、防犯パトロール、清掃活動等、県下でも数少ない防犯ボランティア団体だということで、視察を受けました。

もう1つ静岡県富士市丘まちづくり協議会からの視察も受けました。富士市丘まちづくり協議会は、新興住宅地の子供の数が増えてきているということで、私たちの活動が参考になればということで、10人ほど区長さんたちが来られて、私たちの活動報告と情報交換を行ったということでございます。


それから一番の問題は、会員が減っていくことです。何とか活動を持続させなければいけないということで考えているのが環境づくりです。親睦マレットゴルフ大会とか、あるいは新年会、納涼会とか、日帰りの旅行ということで、会員同士の情報交換会を兼ねてやっております。

活動のポイントでございます。先ほど申し上げました防犯パトロールなどは気をつけていることということでありますけども。必ず会員にそういうボランティア活動を強制しない、出てこいとか言うことは一切言わない。自主的に出られる人は出てくださいということをやっています。パトロール中は挨拶をする、あるいはユニホーム着用等、防犯ベル、防犯手帳を持参するというをやっております。

他の団体でやっていないことは、出前講座をやっているところでございますが、中津川警察署の生活安全課から来ていただいて、振り込め詐欺防止啓発活動の実施ということで、どうしたら犯罪が減るかを検証しています。これはやっておられるところもあると思うんですけど、振り込め詐欺、先ほど紹介しました啓発活動です。資金繰りは先ほど申し上げました年会費1,000円をボランティア会員からいただいています。駅前の駐輪場で、年間132,000円というお金を頂きまして、そのお金で活動費に充てております。

抱えている課題（今後の課題）

- **人材**
 - ・運営17人がリーダーとなっている。隔月に運営会を開催し、情報を共有している。
 - 【防犯パトロール隊員60人の班員（現在12班 57人）】
 - 【緊急子ども見守り隊員の25人の班員（現在21人）】
 - ・会員の高齢化
- **資金**
 - ・活動経費の確保
 - ・年会費1,000円 69,000円（年会員）
 - ・駐輪場管理費132,000円（市）
- **必要な活動費**
 - ・事務費 29,000円 事業費 172,000円 計201,000円
- **情報**
 - ・坂本事務所発行の広報誌「さかもと」や「坂本地域まちづくり推進協議会」のホームページをとおして活動状況のお知らせや募集をしています。




地域安全情報センター開所式写真

最後に

- ・60代の方と女性の動員
- ・不審者の声かけ事案発生場所の再点検
- ・危険箇所を資料化する

願い

- ・10年後、20年後も活動が継続
- ・子どもやお年寄りが安心して暮らせる地域づくり



年末の交番大掃除

ご清聴ありがとうございました。

次に、今後の課題についてお話したいと思います。先ほどその資料を見せていただいたんですが、どこのボランティア団体でも高齢化による会員の減少というのを挙げておられました。今後、そういう後継者育成とか、活動員を確保するということが課題になっております。私たちのボランティア団体では、最高齢は92歳、平均年齢75歳ということで大変高齢化になってはいますが、これから減る一方なので、ぜひその解決をしなければということで、1つは坂本地区に25区ありますが、その区長さんを通じてボランティア活動の参加を呼びかける。会員相互の情報交換ということで、懇親会とかゲートボール大会を設けて、会員の活動意欲の向上に努める。あるいは坂本事務所が発行している広報誌「さかもと」がありますが、あるいは坂本地域まちづくり推進協議会というのがありますが、そのホームページに載せて活動状況を紹介しながら、会員の募集をするということで、今その点について一生懸命やっているということでございます。

最後にお願ひでございますが、これは平成元年に発刊しました「坂本交番友の会10年の歩み」

というものです。記念して250部作ってそれぞれの関係団体、学校、もちろん警察もですが、そういう方面にお配りして見てもらっていますが、その中で会員の声を募集しました。ボランティア団体に参加している会員の人たちがどのように思っているか、それを紹介しておきたいと思います。

これは78歳の女性の方です。「社会参加への機会が少なくなってきた年齢となり、自分にもまだ人の役に立てることがあるかもしれないと、意気込んで坂本交番友の会の一員となり、早10年が経ちました。振り返ってみると、パトロール中、子供たちをはじめ、出会う人たちから「ありがとう」「御苦労様です」と声をかけていただくと、思わずうれしくなり元気をもらったことが何度かありました。また、グリーン帽子とベストを着用して行動する時の自分が、家にいる時とは違って身も心もしゃきつとなっているようにも思います。今では人の役に立つ立たないの問題ではなく、自分のための参加となっており、人との出会いを楽しんでおります。そして、さまざまな活動に参加してきたことが、自分にとって気力体力作りの糧となっていることに気づき、感謝している日々です」ということで、一会員の声でございました。御静聴ありがとうございました。

講評 【皇學館大学 文学部 コミュニケーション学科 准教授 高沢 佳司 氏】

高沢 高沢です。よろしくお願ひいたします。まずは貴重な発表をありがとうございました。大変興味深く聞かせていただきました。まずは印象からですけれども、非常に丁寧に、地域の防犯に関わってみえるなという印象を持ちました。非常に理にかなった活動の仕方だなと感じました。ゴミ拾い等の環境整備もされていたり、駐輪場の整備も、綺麗な環境を作っていくということが、この地域に監視者がいるという印象が、これから犯罪を行おうとする者に喚起させます。そうすると「ここは監視者がいるんだ、やめておこう」という考えにつながるわけですね。これが非常にまずは印象に残りました。

また、活動の資金ですとかそういった面からも、132,000円、駐輪場の管理委託費というところで、持続可能な活動に向けて非常に工夫されているなと感じました。

また、他の団体ではやっていない独自の活動ということで、地域のクラブですかね、出前講座というのが、非常に役立っているのではないかと感じております。

こういった活動の中で、基本的なところを押さえつつも独自の活動をされている。そして、ATMで年金の支給日に見回りや注意喚起もされているというところが、非常に市民の方にとっても安全安心だなというふうに感じました。

根石学区防災防犯協会連合会（愛知県）

皆さんこんにちは。愛知県岡崎市から参りました、根石学区防災防犯協会連合会の会長を務めております鈴木弘一と申します。今日は副会長を務めております石原弘美と二人でお邪魔をさせていただきました。よろしくお願ひいたします。

最初に岡崎市の町内会活動についてお話ししたいと思います。行政上の町とは別に通称町名で町内活動をやっております。現在岡崎市は、556の町内会が



組織をされております。町内会の責任者のことを総代と呼称をしております。それぞれの小学校には、学区総代会というのが設置されております。これは各町の総代によって組織をされております。岡崎市に市立の小学校が47校ありますので、小学校の名前で総代会が組織されております。例えば、根石小学校ですと私どもは根石学区総代会という呼称で呼んでおります。

学区総代会の上部組織としては、岡崎市の総代会連絡協議会という組織がございまして、この会長は、各学区の総代会長より選出をされております。また、各町内会には、防災防犯協会が組織され、会長は原則として総代が兼務をしております。その各町の総代会の上部組織が、私どものこの学区の防災防犯協会連合会という組織でございまして、その上部組織に岡崎市の防災防犯協会連合会というものがありまして、会長は岡崎市長が担当しております。会長以下の役員は、各防犯協会連合会の会長が務めております。

続きまして、根石学区の紹介をいたします。令和3年4月1日現在で、人口が13,456名、世帯数は5,970世帯です。面積としては4.5㎢の広さです。岡崎市の中心部に位置してございまして、保育園、幼稚園、小中高等学校から短大、大学までである総合の教育施設でございまして、文教学区と言われております。

また市民の憩いの場として、東公園というのがございまして、ここには全国でも珍しい象が無料で見られるという動物園がございまして、この公園は、夏や秋にはそれぞれ花菖蒲祭りとか、もみじ祭り等ございまして、私ども各町内会や協会の方たちが、夜間照明をしますので夜間パトロールを交代でやっております。令和3年は、花菖蒲祭りが6月1日～6月20日まで、毎日各町内会の方が代表で交代でパトロールをしました。述べ115名の方が参加していただいております。

次に学区内に岡崎市役所の東庁舎とか、福祉会館とか消防本部、保健所など市の中核の建物がいっぱいございまして、また、国道1号、県道26号とか、市道伝馬町線という幹線道路が縦横に走ってございまして、交通の便の良い学区でございまして、

今日は根石学区防災防犯協会の防犯活動についてのお話をする予定でございまして、団体の名称が防災防犯協会ですので、防災活動についても一言お話ししたいと思います。主な活動は毎年8月末～9月はじめに、根石学区の防災訓練を実施していることです。これは学区民の皆さんが毎年1,000名以上の方が参加していただいております。自宅から各町内会の集合場所まで、またその集合場所から根石小学校までの避難訓練、根石小学校の校庭と体育館を活用させていただいて、シエクアウト訓練とか、避難所の設営とその運営訓練。また、ドラム缶で釜戸を作ってハソリを活

用して薪を焚いて炊飯袋を使って1,000人分の炊き出し訓練。また、担架作成とか、担架搬送訓練、AEDの訓練とか、下水トイレ設営訓練。また参加者全員による水バケツリレー、そのような訓練を実施しております。毎年、中学校の生徒さんも200名ぐらい、小学校の生徒さんも50名以上の方に参加していただいております。



1 根石学区防災防犯協会連合会の紹介

- ・概要、活動地域
- ・設立の経緯、特長

2 根石学区防災防犯協会連合会の防犯活動

- ・防犯パトロール
- ・わが町安全チェックパトロール
- ・若い世代との連携強化
- ・機関誌の作成

3 根石学区防災防犯協会連合会のこれから

- ・活動の成果
- ・課題
- ・今後の取組（根石学区の未来に向けて）

最初の画像は、平成30年2月14日に、先ほど説明しました岡崎迎賓館で実施した犯罪防止の啓発チラシ配布日の集合写真です。岡崎女子大学と短期大学の学生さんも多数参加していただきました。

続きまして、連合会について、大きく3項目に分けて説明をさせていただきます。

1 根石学区防災防犯協会連合会の紹介

根石学区防災防犯協会連合会（愛知県岡崎市）

- 設立年
昭和23年～

- 隊員（R2年12月末現在）
合計 約600名
平均年齢 73歳

■構成員の概要

- 根石学区防災防犯協会連合会は、岡崎市立根石小学校区内の全世帯を会員とし、18の町内会の町内会総代を中心とした自治会の役員、消防団及び婦人自主防災クラブ等により構成されている。
- 連合会には、子供の安全確保等を目的とした「根石声かけ隊」が組織されている。



1 根石学区防災防犯協会連合会の紹介

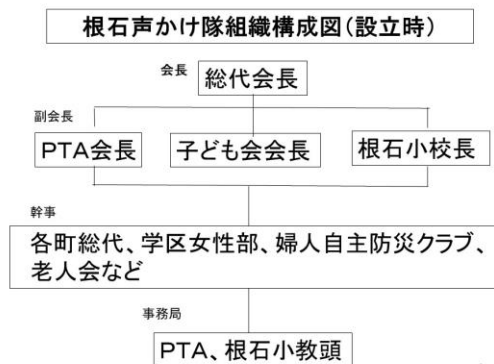
1番目の項目である、根石学区防災防犯協会連合会の紹介をさせていただきます。設立は昭和23年5月に、防犯防災思想の普及を図る目的で設立をしました。その後、昭和53年に現在の名前である根石学区防災防犯協会連合会に改名をしております。町単位ですけれども、令和3年度は、町内会会員の各世帯代表者5,452名全員が協会員です。役員会は、18の各町の防災防犯協会の会長さんと、その他学区の各種団体の役員さん、合計36名で構成しております。また関係団体として、根石声かけ隊というのもございます、これは学区の防災防犯協会連合会の役員がほとんど兼務しておりますが、最初は児童安全ボランティア組織として平成16年の2月に組織されました。その後愛称を募集いたしまして、「根石声かけ隊」という団体になりました。当初600名ぐらいの方が隊員でございましたが、現在は200名ぐらいの方が隊員になっております。

犯罪発生状況の周知について、毎月学区の総代会の定例会を開催して、防犯活動を取り上げ、岡崎警察署管内の学区別の犯罪発生状況とか、学区別ワーストランキング表だとか、愛知県内における犯罪発生状況表を配布して、各町内会の会合で防犯活動に活用していただいております。

また、根石学区防災防犯協会連合会の受賞歴について説明します。平成19年10月には、中部管

区警察局長中部防犯協会連合会会長の連名表彰、また平成 22 年 9 月には、警察庁長官全国防犯連合協会会長連盟の表彰を受けました。令和 2 年 10 月に内閣総理大臣の表彰を受けました。これにつきましては、愛知県警本部さん、また岡崎警察署の御推薦をいただき、非常に名誉である安心安全なまちづくりに関係功労者表彰を受賞しました。これは長年にわたる先輩諸氏の御努力と、根石声かけ隊をはじめとする関係団体の防犯活動に対して、学区を代表して受賞したものだと思っております。

続きまして、根石声かけ隊の組織の内容について御説明します。平成 15 年の 12 月頃、総代会の定例会で、PTA の関係の方より児童安全ボランティア組織の設立の必要性と協力要請があり、協力することになりました。平成 16 年 2 月 17 日に設立をされました。その後、先ほどお話しました愛称を募集して「根石声かけ隊」という名称になりました。設立時の初代隊長には根石学区の総代会長、これは防災防犯協会連合会の会長を兼任されておりますが、2 代目以降については、PTA や子供会の関係者が交代で兼務されております。現在、根石学区の防犯防災協会連合会長は相談役として、活動しております。副会長には PTA とか子供会、小学校の校長先生が交代で選任されております。幹事には先ほど言った各町の防犯防災協会長さん、学区の各種団体の代表者の方、例えば消防団長とか社会教育委員長とかそういう方が就任をしております。事務局については、PTA の役員、子供会の役員、また小学校の教頭先生が就任をしております。



2 根石学区防災防犯協会連合会の防犯活動

2 根石学区防災防犯協会連合会の防犯活動

会員が毎日実施する見守り活動

毎日実施することで地域の連帯感が生まれる！！



- 毎日 午前7時15分～午前8時頃まで
- ・ 児童の登校時に会員が通学路の交差点に立つ
- ・ 児童に付き添って登校する

次に 2 番目の項目である、連合会の防犯活動について説明いたします。これについては、根石声かけ隊はじめ、連合会の役員さんが、毎日小学校の生徒さんの登校時の見守り活動を実施しております。

2 根石学区防災防犯協会連合会の防犯活動

毎日実施する青色防犯パトロール



毎日、児童の下校時(午後3時～午後4時頃まで、青パトで児童の安全確保のためのパトロールを実施。
毎日午後8時頃～午後9時頃までの夜間も青パトでのパトロールを実施。

続きまして、青色回転灯パトロールです。これは平成17年6月21日に出発式を開催した後、毎日実施しております。現在令和3年度の登録車の台数は11台。またパトロール実施者証の取得をしているのが20名。この方々が交代して毎日下校時にパトロールをしております。特に問題は、75歳以上の方は運転しないということを決めたんですけども、後継者不足で、実際は75歳以上の方も運転していただいているのが実情でございます。

次に地域を指定しなくて、自転車の前かごに「パトロール実施中」というプレートをつけて、これもそれぞれの地区でながらパトロールを実施していただいております。

2 根石学区防災防犯協会連合会の防犯活動

徒歩及び自転車でながらパトロール

—ながらパトロールで防犯意識の高揚—



パトロールの時間帯やエリアは指定せず、愛犬の散歩時自転車の前かごにパトロール実施中のプレートをつけて実施。

2 根石学区防災防犯協会連合会の防犯活動

小学校における不審者侵入訓練

—小学校、警察と連携して訓練を実施—



池田小学校殺傷事件を機に、平成14年から毎年春に実施。
新入学児童に危険意識を持たせ、防犯意識の高揚を図る。

続きまして小学校における不審者侵入訓練です。これは毎年岡崎警察署の御協力をいただいて、実施をしていただいております。また毎年2月には、防犯活動に対する生徒さんによる感謝の会というのが開催されていまして、その席上で私のほうからいつも児童を犯罪から守る合言葉の「つきおに」という話を毎年して、児童が犯罪に遭わないようお願いをしております。令和2年7月に4年生の根石学区の防犯防災活動についての勉強会が計画されていまして、学校より要請がございましたので、私が出向いてお話をさせていただきました。

次に「わが町安全チェック・パトロール」についてです。これは平成15年～平成21年まで、学区セーフティパトロールとして実施してきましたが、平成22年より毎年10月に「わが町安全チェック・パトロール」として、岡崎警察署、防犯設備アドバイザー、岡崎市安全安心課、根石学区防犯防災連合会で約30名の方が参加し、4コースに分かれて学区内の戸建て住宅、共同住宅の防犯診断、防犯灯の必要な場所、または駐車場における車内の置物があるかどうか、駐輪場の自転車が施錠をしているかどうかをチェックして、パトロールした後に会議室に集まっていただき、それぞれの結果報告と発表、診断結果報告などをしていただき、それを受けて、後日、各町内会の役員会等で、防犯活動に反映していただいております。

2 根石学区防災防犯協会連合会の防犯活動

わが町安全チェック・パトロール

平成22年から毎年10月に実施

- ◎対象箇所
・学区内の戸建て住宅
・集合住宅
・駐輪場
・公園

- ◎効果
防犯診断により防犯上脆弱な箇所を把握

- ◎対策
管理者に対策を依頼

通算で100箇所以上を実施



また平成 29 年度から、岡崎女子大学、短期大学の先生と学生さんにも参加していただくことになり、若い方々の防犯意識向上を図っております。

これは、岡崎短期女子大学の生徒さんといっしょに「わが町安全パトロール」を実施した時の写真です。根石学区の市民ホームに、岡崎警察署、岡崎市安全安心課、岡崎額田防犯団体、また岡崎大学、短期女子大学の生徒さん、先生も集まっていたいただきまして、防犯講習のあと、学区内の合同防犯診断、防犯宣言プレートの掲示依頼と同時に、防犯プレートの取り付けを実施いたしました。

2 根石学区防災防犯協会連合会の防犯活動

岡崎女子短期大学とわがまちチェック・パトロール



連合会の日々の活動に影響を受けた、岡崎女子短期大学の学生とともに、わがまちチェック・パトロールを実施。防犯ボランティアの高齢化、後継者不足という課題の解消のため、若い世代の育成にも力を入れている。

2 根石学区防災防犯協会連合会の防犯活動

■活動上の工夫

◎活動を長く継続させるための工夫

- ・ 隊員の自主性を尊重し事務局で管理しない
→ **空いた時間に無理なく活動**
- ・ 住んでいる区域で自主的に活動
→ **移動等の負担軽減**
- ・ やらされている感を払拭
→ あくまでも隊員の自主性に任せ
活動日数等を指示しない

2 根石学区防災防犯協会連合会の防犯活動

■活動上の工夫

◎やる気を引き出すための工夫

- ・ 身分証の効果的な活用

根石声かけ隊の身分証を作成し連帯意識を強化

効果

- ①活動参加の使命感が向上
- ②身分証を付けて継続的に活動を行うことで、地域住民に身分証を付けている人は「安心」という意識が根付く
- ③地域住民とのコミュニケーションにより、高齢の隊員の生きがいになっている。



活動内容の工夫ということで、特に活動日時等は原則としてお願いをしておりますが、都合が悪い場合は不参加でもよいという指導をして、自主性を尊重して活動しております。

これは、根石声かけ隊の活動の時に、必ず携帯しておる身分証です。また下にあります腕章等をつけていただいて、パトロール等を実施していただいています。特に子供さんが知らない方に声をかけられたら逃げなさいという指示をされているのですが、この声かけ隊の隊員証を持っている方には、必ず挨拶をするようにということで、学校のほうからも指導をされております。

3 根石学区防災防犯協会連合会のこれから

【活動の成果①】 72年の長期活動により活動が定着



- ・ 72年の長きにわたる活動で地域に活動が浸透、定着
- ・ 活動に影響を受けた大学生、高校生にも活動が波及

3 根石学区防災防犯協会連合会のこれから

【活動の成果②】 地域全体の防犯意識が向上



- ・ 児童、地域住民とコミュニケーションを取ることで、防犯意識が高まった。
- ・ 防犯意識の高揚を目的として、根石小で冬休みの宿題として防犯標語を募集

続きまして、3番目の項目であります、根石学区防災防犯協会連合会のこれからについて説明させていただきます。これは根石声かけ隊の方が、毎日登校時に見守り活動をしている写真でございます。

次に地域全体の防犯意識の向上ということで、これは毎年、年末の12月28日～30日の3日間、歳末特別夜警として、各町の防犯防災協会が、町内を拍子木を叩いて夜回りを実施しております。

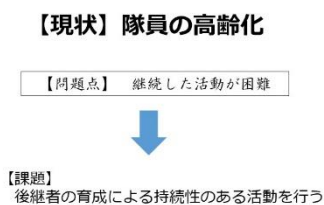
令和元年度は、延べで645名の多くの協会員の方に参加をしていただきました。根石声かけ隊が「根石の子供は根石で守ろう」と書いた0.9m×7.2mの大きな横断幕を掲示してありまして、犬の散歩時でも見守り活動を実施しております。

活動の成果としては、犯罪発生件数が大幅に減少しました。特に住宅対象侵入盗について、平成30年には6件発生していましたが、令和元年は過去にないゼロになりました。住宅対象侵入盗がゼロです。これは岡崎警察署、また学区民の御協力により、約3カ月間の防犯カメラを取り付けていただいたことと、防犯カメラ設置推進地区という標識を120枚学区内に掲示し、犯罪抑止に取り組んだ結果であると思っております。

また、岡崎市の御協力によりまして、令和2年度は無償で学区内に14台の街頭防犯カメラが設置されました。また令和3年度も無償で、学区内に13台の街頭防犯カメラが設置される予定です。岡崎市としては、市内に3年間で約1,000台の防犯カメラを無償で設置するという計画がございます。

3 根石学区防災防犯協会連合会のこれから

■課題



次に課題ですが、会員の高齢化であります。各町の防災防犯協会の役員の方に、若い方々を後継者として育てていただくようお願いしております。また、根石声かけ隊の隊員についても、PTAだとか子供会の関係者の若い皆さんに、多数参加をお願いしております。

今後の取組ですが、やはり若い方のお力をお借りしたいということで、大学生、高校生の方に、ぜひ参加していただくようお願いをしております。

以上ですが、根石学区のこれから犯罪の無い、火災の無い、交通事故の無い、また災害の無い、安全で安心な活力ある住みやすいまちづくりのために学区民、また各種団体の皆さんにご協力いただきまして、これからも頑張っていきたいと願っております。御清聴ありがとうございました。

講評

高沢 まずは貴重な御発表、ありがとうございました。実は私は、前職が愛知学泉短期大学という

3 根石学区防災防犯協会連合会のこれから

【活動の成果③】 活動地区の犯罪発生件数が大幅に減少

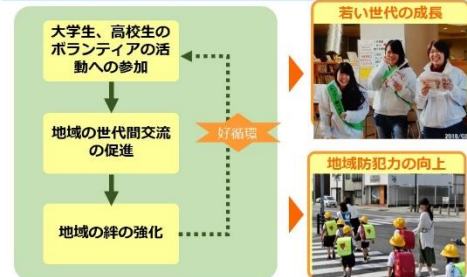
【根石学区における犯罪発生状況の推移】



3 根石学区防災防犯協会連合会のこれから

■今後の取組 — 根石学区の未来に向けて —

若い世代の参加を地域の伝統として継続させていきたい



ご清聴ありがとうございました。

「誰でも」、「いつでも」、「どこでも」をモットーにパトロール活動を継続中です。

根石学区の安全で安心なまちづくりめざして頑張るぞ！



根石学区防災防犯協会連合会



ところでして、岡崎市の矢作川を挟んで西側におりました。根石学区というのも、よく保育幼稚園の実習の巡回で、そばを通過しておりましたので、よく知っている地域であります。やはり、歴史もある会ということで、非常に地域に根差して、ずっと安心安全ということを追求していらっしやっただんだという印象を持ちました。

特に私が特色だなと感じたのは、高校生、大学生のボランティアさんを非常によく社会資源として活用されているんだと思います。こちらに登場しているのが岡崎女子短期大学さんのボランティアさんということで、こういった世代のボランティアを募るということが、1つ未来の社会資源の掘り起こしに非常に有効だなと感じております。それは、高校生さん、大学生さん、あるいは短大生さん、その時は、例えば短大を卒業してすぐに警察官になるのかとか、すぐに土日だけでも、あるいは社会人になった後ボランティアをやってくれるのかとか、すぐにはそういったところにながらなくても、将来「そういえば若い頃にそういうことをやっていたな」というこの記憶が大事だと思っております。ですので、そういった20代前後の層をすでに掘り起こしていらっしやるということで、非常にこれは有効だなと感じました。また、もう1つの特徴としまして「わが町安全チェック・パトロール」ということで、特にこちらが特色で、例えば集合住宅の管理者に、いろいろな防犯上の脆弱性を指摘されて、情報をリークされているという活動ですが、これもかなり有効ではないかと感じます。いろいろな情報提供する対象があると思いますけれども、ボランティアさんの数というのは当然限られていて、市民一人一人がこういった防犯について詳しくなっていく、これは味方を増やすことになっていくので、これもかなり有効ではないかなと感じました。

川西・梅が丘地域づくり委員会（三重県）

皆様、特に中津川市と岡崎市から遠路わざわざお越しいただきまして、ホスト県として心から歓迎をいたしたいと思っております。と言いましても、私どもも三重県の端の名張市で、隣はすぐに奈良県という所です。



防犯ボランティア活動全体概要



川西・梅が丘地域紹介(位置)

名張市は伊賀市と津市に接し、西は奈良県山添村・宇陀市・普爾村に隣接。
川西・梅が丘地域は名張市の西端に位置し、周囲の半数以上が名張川に囲まれている。



川西・梅が丘の位置ですけれども、伊賀市の南、津の西という場所で、さっき言いましたように隣がすぐ奈良県の山添村です。名張市の中でも一番西の端になります。

(1-1)防犯パトロール

1) 青色防犯パトロール
2) 徒歩による防犯パトロール

令和2年度 47回 のべ307人が参加



青色パトロール車と隊員



夜間パトロール出発

(1-2)防犯パトロール

防犯体制と組織(1)

自主防犯パトロール隊

部会長 事務局
防犯防災委員 15名
ボランティア会員 13名
防犯カメラ設置 6台

コーディネーター 2名
会員 28名(男26名 女2名)
昼パト 1時間
(第1第3水曜)
夜パト 1時間
(第2第4土曜)
年末年始特別警戒 1時間
その他夏祭り等の対応

どこの地域もそうですけれども、青色パトロール隊をやっています。去年度は47回出動しまして、延べ307人が参加をいたしました。昼と夜、パトロールをしています。

組織は、さっき言いました川西・梅が丘地域づくり委員会というので、川西というのは当然のことですが、名張川の西側。梅が丘というのは新興住宅地の所が梅が丘というところ。桔梗が丘というのは割合有名な場所ですけども、我々の団地の名前は梅が丘といいます。名張市は地域の独自性が高くて、そこに税金をつぎ込んでもらっています。その地域づくりの委員会で、いろいろな部会がありますけども、防犯防災部会というのがありまして、その部会長が隊長ということになっています。その他に防犯防災委員が15名、ボランティアの人が13名、防犯カメラが6台設置

してあります。これについては後で言います。活動の会員数は、男性 26 名と女性が 2 名。昼パトが 1 時間。夜パトもやっています。その他に年末年始、それから夏祭りに活動しています。

(1-3)防犯パトロール

防犯体制と組織(2)

活動内容

【防犯活動】

- 犯罪抑止・防止活動 **昼間・夜間パトロール隊**
- 地域住民の関心を高め連帯感を醸成する
- 各種イベントなどのパトロール

【防災活動】

- 台風災害対策(広報活動及び巡回)
- 凍結防止対策
- 行方不明者対策 (後述、安全カメラ)等

(1-4)防犯パトロール

防犯体制と組織(3)

防犯パトロール設備備品

【資産・備品】

《防犯グッズ》	《防災用品》
①ユニフォーム	⑤川西地域の防災用品
②帽子	⑥救命胴衣 ゴムボート
③懐中電灯	⑦救命用ロープ、スコップ
④ヘルメット、腕章	⑧発電機、サーチライト そして…

活動内容としては、まず防犯活動ですが、さっき言いました昼と夜のパトロール。イベント時のパトロールというようなことです。その他に先ほどもありましたけども、防災も兼ねていますので、防災のほうは特に台風の災害、それから梅が丘の新興住宅地が山の高い所にありますので、ちょっと下界とは温度差があります。冬になると年に 1 回 2 回あるかないかですけども、道が凍結します。その時に凍結防止剤を撒くというようなこともやっています。

防犯パトロールの設備等々ですが、これも普通で別に特徴的なものはないんですけども、あるとすれば防災用品で救命胴衣とゴムボートがあります。これは、名張川の氾濫が最近起こっていませんけれども、伊勢湾台風の時に大きい洪水で浸水しました。その対策としてゴムボートと救命胴衣を部会として設置してあります。

(1-4)防犯パトロール

防犯体制と組織(3)

青色回転灯装備パトロール車

【資産・備品】

市民センター、連合自治会(通称:ナウラ)にそれぞれ各 1 台 計 2 台

※ ともに、**ドライブレコーダー(前後撮影)完備!**

→ ドライブレコーダーは、三重県警察「みえの宝!子ども見守り活動応援プロジェクト」青色回転灯装備車両へのドライブレコーダー等貸与による活動支援事業の貸与品

(1-4)防犯パトロール

防犯体制と組織(3)

三重県警察貸与のマグネットステッカー

ドライブレコーダーとともに貸与されたマグネットステッカーは両側面に 1 枚ずつ、背面に 1 枚それぞれ貼付。とても可愛いイラストで、子どもたちにも好評です。



パトロール車はどこの地域もお持ちですけど、うちでは市民センター、通常で言いますと公民館のことです、それから連合自治会、真ん中にある新興住宅地には連合自治会に 1 台ずつ置いてあります。ともにドライブレコーダーですが、これは三重県警のほうから頂きまして、2 台ドライブレコーダーを付けております。これは貸与ということです。その他にパトロール車の横にイラスト入りのマグネットステッカーを貼り付けてあります。

(2-1)防犯活動

登校時における見守り活動

最寄りの梅が丘小学校の集会での一コマ。朝の登校時に小学生などの安全を見守ってくださっているスクールガードを先生が児童の皆さんに紹介。

スクールガードからは環境美化、名張の自然の魅力、交通安全についてなどを説明、皆さん熱心に聞いてくれました。



(2-2)防犯活動

登下校時における見守り活動

「三重県警察認定」子ども安全・安心の店



地域で守る！未来の宝！

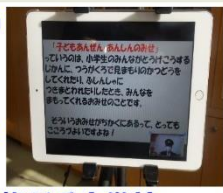
登校時における見守り活動を行ってきていますが、うちの弱点としては下校時がどうしても見守りができないというか、ばらばらと下校してくるので、そこがうちとしては弱点になっています。老人会のほうで声かけ運動なんかも企画してもらっているんですが、組織的に事業として立ち上げているわけではありませので、この点が他の地域とは違って弱点かなと思っています。

これは三重県警の「子供安全・安心の店」ということで、通学路にあるお店で、そんなに大きな任務はありませんが、やらなければならないことが少しあります。そういう店が当地区で1軒。これは田吾作というおうどん屋さんですけど、なってもらっています。ここに書いてあるように、県内には1,035軒がそういうお店として動いていただいているし、名張署管内では34軒ということです。

(2-3)防犯活動

リモートによる防犯教室

名張署では、コロナ禍に配慮し、管内に所在する小学校にて適宜、リモート中継による防犯教室を実施しており、当地域でも、名張署・梅が丘小学校・地域(委員会)が連携し、開催を検討しています。



(3-1)防犯広報

ホームページやフェイスブックを活用した情報発信

令和3年3月末現在、HPを155回更新 リー千数 15,964回
川西・梅が丘地域づくり委員会 ホームページ
川西・梅が丘地域づくり委員会 フェイスブック

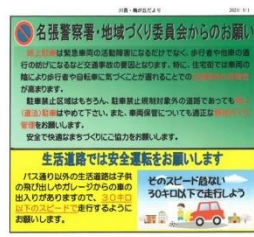


名張署では今こういう状況ですので、直接小学生や中学生に啓発活動は非常にしにくいことになっています。それで今、リモートによる防犯教室を計画しています。なるべく効率のいい、分かりやすい防犯教室にしたいなと思っています。

広報活動ですけれども、ホームページと Facebook をやっています。特に Facebook は認知数が15,964回ありまして、これは非常に評判が良くて、名張市の市議員もうちの地区の Facebook のいいね！をくれている1人です。

(3-2)防犯広報 広報紙「川西・梅が丘だより」の発行

毎月1回発行カラー印刷



(3-3)防犯広報 警察から情報提供された「絆ネットワーク配信」などを館内に掲示

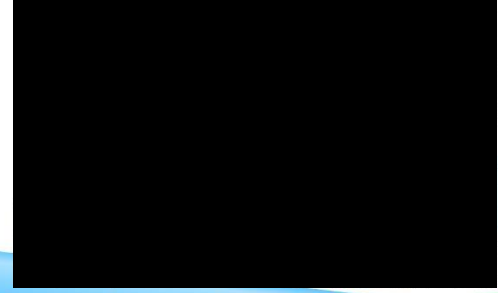
「絆ネットワーク通信」などの掲示状況



紙ベースの広報誌ですけれども、これは毎月1回、カラーで印刷してあります。その中に警察から、地域づくりの委員会から、お願いを入れてあります。カラーにしてあるのは、白黒でしたらあんまり地域の方が見てくれません。すぐに捨ててしまいますけど、カラーだったら見てくれますし、特に子供たちが写真で載るかもしれないという親御さんの期待があって丁寧に見てくれる場合があるので、カラー印刷にしてあります。

これは、名張署からの「絆ネットワーク通信」というのを、市民センターの館内に掲示してあるという場面です。

(4-1)防犯カメラ 防犯カメラの設置場所(6箇所)



地域内への出入りが、全て確認出来る箇所に設置

(4-2)防犯カメラ 防犯カメラ等の設置状況



防犯カメラ 防犯カメラの設置を示す看板

実はうちの目玉ですけど、防犯カメラが6台付けてあります。なぜ6台かという、ちょうどここに川があって山があるので、出入口がこの6カ所を抑えれば、全ての交通の出入りが分かるということで、この6カ所があります。これは3年間かけて設置しました。

これが設置状況で、左側がカメラで、右側は設置していますという設置看板です。

(4-3)防犯カメラ 防犯カメラ設置の目的

- 1 高齢者の徘徊や子どもの行方不明事案などへの早期対応**
- 2 犯罪の抑止力向上**
- 3 万が一の事件・事故発生時、早期解決の有効な手がかかり**

(4-4)防犯カメラ 防犯カメラの運用

防犯カメラ運用規定(抜粋)

運営・情報管理

- 1 本システムの管理責任者は川西・梅が丘地域づくり委員会会長とする。**
- 2 システムの画像開示にあたっては、プライバシー保護等の観点から、「第三者委員会」の許可なくして開示することを厳禁とする。**

防犯ですから、犯罪を抑止するというのが目的でもあるんですけども、一番メインにしたのは、

高齢者の徘徊です。これは苦い思い出がありまして、もう 20 年以上も前ですけど、おばあさんが行方不明になって、捜索隊を作って 1 週間がかりで探したんですけど、結局見つからずしまいました。防犯カメラがあれば、その情報をもとにどっちのほうに行ったかがすぐわかりますから、その方面に集中して捜索隊を出したりできます。子供の行方不明も一昨年 1 回だけありました。それで、犯罪抑止向上はもちろんですし、早期解決ということですよ。

運用規定を非常に厳密にしてあります。これは日弁連の防犯カメラに関する答申というのがありまして、それを元にして非常に厳密に防犯カメラの運用規定を作りました。この時には、名張署の生活安全課の課長さんが、たまたま防犯カメラの専門家でもあったので見ていただいて、条項を全部チェックしていただきました。名張市の顧問弁護士の方にもチェックしてもらって、規定をしっかりとしたものになりました。第三者委員会も作りました。これは地域住民以外の有識者の方ですけど、何名かなっていただいて、その方々の許可がなければ画像を見ることができない、画像提供できないということにしてあります。

(4-5)防犯カメラ **防犯カメラの管理**

防犯カメラの保守点検

定期点検と刷新

- 防犯カメラは、年2回の定期点検を実施。異常が発見された場合は、原因の究明と追加点検(月1回程度)を実施。
- 令和3年2月に設置から6~7年経過した防犯カメラの刷新(入れ替え)を実施。

(4-6)防犯カメラ **防犯カメラの再利用**

市民センターの防犯カメラ

- ・ 古くなった防犯カメラを市民センターの防犯対策として設置！(事務所には、モニターを設置)

点検等々年 2 回やっているのですが、それでもちょっと具合が悪くなったりしています。今年 2 月にもう 6、7 年経ちましたので、防犯カメラの入れ替えをしました。その入れ替えたカメラを市民センターのほうへ防犯カメラとして設置し直しました。

(5-1)簡易無線 **簡易無線電話機の体制と活用**

緊急時の連絡体制構築(無線機25台)

- 各区長・自治会長
- 防犯部会・自衛消防隊・青色パトロール隊
- 小学校

簡易無線で電話機の活用

- 防災訓練時の連絡用機器として使用
- 地域イベント等の安全確保・防犯

(5-2)簡易無線 **簡易無線を活用した防犯防災システムの構築**

あとパトロール隊とか各区の区長、自治会長 15 名と小学校に無線機 25 台を配置してあります。これは市民センターの本体から発信すれば、全ての地区に一斉に情報が流れるということで、流したことはありがたいことにまだありませんけど、そういう状態で常に自治会長や小学校の無線機は、オンの状態にしてもらっています。これがその 25 台の無線機で、左側が本体になります。

(6-1) 駐車対策

違法・不法駐車対策

- ・ 違法駐車による緊急車両の走行疎外対策
- ・ 地域住民が困っている、違法駐車対策としての受け皿をつくる。
- ・ 名張市用地、利用による駐車場事業
(地域内4か所、計52台)
- ・ 福祉施策を進める上での体制確立
- ・ 名張市から空き地などを借用し住民に貸付を行い、運用するために駐車場の設備投資を行った。
- ・ 環境、防犯防災、福祉活動への還元

(6-2) 駐車対策

コミュニティビジネスとしての
駐車場事業



あと、新興住宅地は特にそうなんですけど、違法駐車、路上駐車が非常に多いので、非常に困っていました。緊急車両が通れないということがありまして、我々の地域では団地ができたときに発生した事案です。それで、名張の市役所の集会所用地がなかなか集会所もできないので、空き地のままずっと置いてあったところを4か所借りまして、そこに駐車場を地域づくり委員会で運営していくということで、計52台の駐車スペースがあります。それをどうするかというと、そんなに高くはないんですけどお金を頂いて、それを地域づくりの福祉に回すとか、いろんなところにそのお金を使おうということで、いわゆるコミュニティビジネスの1つとして位置付けています。

本音を言えば、他にも駐車場を作ろうとしたんですけど、なかなか周りの住民の方の賛同が得にくいんです。やっぱり駐車場で排気ガスも出ますし、自動車の光も発生しますので、なかなかこれ以上駐車場を広げるとするのは、ちょっと難しいかなと思っています。

(7) 課題

課題

- 1 「人材」
団体構成員の高齢化
- 2 「資金」
活動資金の不足
- 3 「情報」
地区内に居住する6,600人もの
住民に向けた情報伝達の手段、方法

(8-1) 取組方策

課題の解決に向けた取組方策

- 1 「人材」
団体構成員の高齢化
 - (1) 解決に向けた取組
 - ・ 構成員の中核を担う現役世代の自治会長を中心に同世代の住民に対する声掛け等の推進
 - ・ 現役世代等が興味を持つサークルを中心に、加入を働き掛け、団体への参加促進を図る
 - (2) 成果
 - 多くの現役世代の住民が構成員として加入した。

課題ですが、高齢化が1つの問題です。それから2つ目がお金の問題ですね。それから3つ目が情報の問題です。どういうふうに情報を拡散するか、広げていくかということですね。

それで取組としては、いろんなことを考えていますけれど、まず1番目が、高齢化についてです。新興住宅地で、一世の方が現に住んでおられて、子供たちが同じ住宅団地に住んでいるという場合が、ぼちぼち出てきました。うちのところで言えば、大阪に出たり名古屋に出たりではなくて、地元で職を見つけて地元に残ってくれている若い人たちが、ぼちぼち出だしました。そういう人たちをどういうふうに集めていくか、力をプッシュしていくかというのは、1つの大きな課題です。現に今の自治会長のうち1人、二代目の方が自治会長になってもらっています。

それから、サークルを中心に働きかけていくことも考えています。さっきも言いましたように、二世世代の人が自治会長をしてくれるような状況が、生まれてきているということです。

(8-2)取組方策

課題の解決に向けた取組方策

2 「資金」
活動資金の不足
(1) 解決に向けた取り組み

- ・ 名張市からの補助金や交付金の獲得
- ・ 自治会費との連動
- ・ サークルのバザー売上を団体資金に補填

(2) 成果

- ・ 経常的な経費のみならず、防犯カメラ、街灯等の防犯環境の整備が充実した。

(8-3)取組方策

課題の解決に向けた取組方策

3 「情報」
地区内に居住する6,600人もの住民に向けた情報伝達的手段、方法
(1) 解決に向けた取組

- ・ HPやフェイスブックを活用した情報発信
- ・ 広報紙による情報提供
- ・ 市民センター掲示板に絆ネットワーク通信を掲出

(2) 成果

- ・ 犯罪情報や団体の活動を広く周知することで、地域住民の安心感の醸成と防犯意識の向上に繋がった。

2番目はお金です。これはどうしようもないですけど、名張市は非常に財政がひっ迫している市でして、なかなか補助金、交付金が出てこないです。その中でもいろんな情報をかき集めて、交付金をなるべく取ってこようという気持ちではあります。それから、新興住宅地は連合自治会ですので、自治会費を徴収しています。ここは、割合潤沢にやっていますので、大きな事業だったら、地域づくり委員会のほうから半分、連合自治会のほうから半分という形で、活動をする場合もあります。あとはバザーをやってもらって、その売上金を寄付してもらっています。成果としては、防犯カメラの維持とか街灯などの防犯環境の整備が充実しています。

3つ目が情報です。これもさっき言いましたように、いろんなホームページ、Facebook、広報紙、掲示板などでやっています。特にFacebookは、面白いイベントの広報をしますので、割合よく見てもらっているようです。

(9-1)その他

自衛隊・市・消防と連携した自主防災訓練と総合防災訓練

(9-2)その他

環境美化活動

あとこれは自主的な防災訓練です。我々の地域は年2回、防災訓練をしているんですけども、1回目は自主的に地域だけでやっています。もう1回は市がやっている防災訓練と共同でやっています。これが去年の様子です。

これは環境美化活動です。これも新興住宅地でやったことですが、空き地が草でぼうぼうという所が名張市でも多いです。それで、これは「草刈隊」と呼んでいるんですけど、「草刈隊」が平成の初め頃から、新興住宅が完成して2、3年した後ぐらいから、もうずっと草刈をしてもらっています。草ぼうぼうだったら、そこへ犯罪者が入り込んで隠れるということはほぼないんでしょうけども、やっぱりそういう町だなと思われれます。子供たちの第二世代の人たちが残ってくれるというのもそうなんですけど、やっぱり町が綺麗だということがあります。不動産取引でも「梅が丘のみ、募集してます」というような広告が出たり、周りでも梅が丘は綺麗だということです。ニューヨークの「割れ窓理論」というのがあります。窓が1個割れたとしても、それ自体は大きな犯罪

ではないんですけど、それをほったらかしにすることで大きな犯罪を誘発するというものです。うちにとっては空き地に草がたくさんあるということが、割れ窓なんです。それを綺麗にして皆さんの防犯意識、防災意識を高めようということで、ずっとやってもらっています。



これはお楽しみですけど、夏祭りもやっています。今年は残念ながら中止になりました。この真ん中の一番左端が防災カレーで、これは備蓄している防災のお米とカレーを使って出店をしています。以上です。

講 評

高沢 まずは、貴重なお話をありがとうございました。私も伊勢で働いておまして、まだ名張には伺ったことが無いんですが、この数日インターネットのほうで、曾爾という地区のほうを見させていただいたり、名張川を見させていただいたりしておりました。活動の御発表を伺って、やはり非常に丁寧にされているなという印象を持ちました。

特におっしゃっていたように、防犯カメラの設置の場所に特色があるかなと感じました。地区に出入りする端の所に2カ所設置されていて、ここがやはり地区への出入りの重要な所かなと。そしてその他にも4カ所設置されているということですね。このやはり地域の特性に合った設置の仕方、非常にこれは有効だなと感じております。また歴史も古い土地ですので、昔は天然の要害といえますか、名張川があつてなかなか入って来られない所であるというところで、川の端、そういった所も設置している。そして、登下校ですとかいうような所にさらに設置していく、それも合理的にやられているという印象です。それから、それに関連してですが、防犯カメラ等の設置状況を市民の方にも分かりやすく看板でお知らせしているのは、実は有効ではないかと思っております。設置していますよという、やはりここには監視者がいるんだと分かります。ですので、もし何か犯罪行為をしてやろうという人が出てきた場合、監視者がいるということでこれは抑止になるというところですね。あとは防災にも使っているということで、川というのは、そのものがあつて地域の特性があつてというところを効率的になさっているなと感じました。

また、これはリモートによる防災防犯教室を計画されているということで、これは非常に現代的で、非常にこのコロナの状況の中でも活動ができているということはすごい工夫だなと感じました。やはりこういったものを小学校とかに提供していく中で、こういった社会状況の中でも活動が効果的にできるという、非常にうまいやり方だなと思っております。また、ホームページやFacebookがあるということで、これも情報発信ということでは、非常に有効ですね。もちろん、紙のチラシでやっていくというのも大事です。そしてさらに、いわゆる ICT を使ってっていく、こ

れが非常に特色があるかなと思います。おそらくスタッフの方に、ICTに精通した方がいらっしゃるのかなと感じました。

またそのカメラを無駄なく市民センターの方でも使っていたり、非常に合理的で、また、情報の伝達に防犯防災システムとして、簡易無線をやってらっしゃる。まちづくりと非常に密接に考えてらっしゃるなというところがありました。駐車場事業ですけれども、その売り上げを回していったりとか。また人材の確保というところでは、地元に戻って残ってくださる世代が少しずつ増えてきたという話がありました。その中でやはり町全体としてどうしていくかというような、まちづくり、都市政策というものを非常に感じましたし、本当に地域が総合的にあらゆる面で良くなっていくというふうなところを目指してらっしゃるんだなと感じました。

最後に、割れ窓理論の話も出ました。非常に私はこれを重要視してしまっていて、綺麗である、単にきらびやかであるということではなくて、やはり、ここはちゃんと人の手が入っている、管理されているということが、草を刈るということ1つにとっても、そういった効果がありますね。ゴミを拾うということもそうですし、非常にこれは重要ですね。さまざまな工夫がされていたかと思えます。

清水町地区防犯組合連合会（富山県）

皆さんこんにちは。富山県の清水町地区防犯組合連合会の会長をしております、永瀬と申します。よろしくお願いたします。

それでは、私たちの活動について御説明いたします。まず私たちが活動する清水町地区の概要について説明します。富山県の県庁所在地である富山市は、北は富山湾、東は立山連峰を有する自然豊かな所であり、富山県の中心に位置しています。清水町地区は、その富山市の中央にあり、富山市中心街である総曲輪地区の南東と隣接しています。清水町地区は、従来から住宅地が広がる地域です。最近では道路沿いにコンビニ、スーパー等が建設され、人の往来や交通の流れが増しています。

今年4月現在の人口は、富山市からの公表数値では、約2,000世帯で、人口は約4,000人となっています。富山市は昨年末の警察署再編で、警察署は4つから3つになりましたが、その中でも規模が大きい富山中央警察署管内を活動区域とする富山防犯協会は、中央、東部と2つのブロックに分かれており、私たち清水町地区防犯組合連合会は、中央ブロックに所属しています。

連合会は、現在役員30名にボランティア会員を加えた60人の有志が中心となって、幅広い防犯活動を行っています。清水町地区防犯組合連合会は、約50年前に地区内の各種犯罪を防止し、安全安心で明るく住みよい地域社会をつくるため、防犯思想の普及と防犯事業の推進を図ることを目的に結成されました。構成は、清水町地区防犯組合連合会、富山中央警察署東町交番連絡協議会、清水町地区安全なまちづくり推進協議会、中央小学校清水町地区下校時見守り隊、清水町防犯パトロール隊、富山市清水町地区自主防犯組織がありますが、その他、自治振興会や社会福祉協議会、民生委員などと連携しながら活動を展開しております。

清水町地区では、昭和50年代は少年人口が増加したことなどを背景に、刑法犯の発生も増加し、平成になってからは高齢化が急速に進展し、高齢者や独居世帯も増えてきました。そのため、私たちの活動も少年や高齢者に対する防犯教室や講習会、ホットスポット活動を交えた防犯パトロール、地元広報誌での注意喚起を中心として活動してきました。このように、住民の熱意により連合会の防犯活動は継続されてきましたが、活動メンバーが高齢化してきたり、いつも活動するメンバーが固定化してきたり、また、若い人の参加がなかなか進まないなど、連合会としてより効果的な活動に向けた課題が、目につくようになってきました。

そもそも地域安全運動とは、犯罪や事故の防止、被害の拡大防止を図るため、地域住民がお互いに協力しながら参加し、地域全体で安全で安心して暮らせるまちづくりを行うものだと考えています。そうは言っても、これらの課題は簡単に解決するものではなく、対応は先送りになっていました。

こうしたところ平成20年に、私たち清水町地区の小学校は、近隣の五番町小学校、星井町小学校と統合するという出来事があり、これに伴い清水町地区に住む児童の通学路も変更となりました。当初は旧五番町小学校のパトロール隊員は、清水町地区の児童の見守りを行って来ていまし



た。しかしながら、年々隊員の負担が増加し、清水町地区で見守りができないかとの声が上がることが多くなったのです。私たちとしては、これ以上他地区の好意に甘えているというわけにはいきませんが、今のメンバーだけでは見守り活動は困難でありました。そこで、メンバー不足が切実な問題として浮かび上がってくるとともに、メンバーの確保に向けた取組をしていかなければならないのだと、強く感じるようになったのです。

メンバーの確保に向けた取組として、まず中央小学校PTAに対し、児童見守り活動への参加を持ちかけたのですが、PTAの方々は皆さん日中に仕事を持っているため、無理に参加してくれとはお願いできない状況でした。本来であれば、子供たちの安全安心を確保するためには、その保護者の方々に活動をいただきたいところでしたが、それが叶わなくなり、そうは言っても見回り活動のメンバーは確保する必要があったことから、私たちは自治振興会や老人会にも参加を持ちかけ、個人的な交友関係も駆使して、何とか最低限の活動ができるだけのメンバーを確保することができました。このメンバーの方々は、個人的な関係を通して参加をお願いしたという経緯があったからかもしれませんが、ありがたいことに本当に真剣に、熱心に取り組んでいただいています。そうしたところからこの見守り活動をする姿を見た住民からも、自主的に参加していただく方が出てきたのです。自治振興会や老人会に声かけして始めたメンバーの確保に向けた取組だったのですが、現在では交通安全協会清水町支部、社会福祉協議会などにも活動の輪が広がり、交番とも連携しながら、月曜日から金曜日まで活動を継続しています。まずはオリジナルメンバーが個人的な交友関係を通して活動の理解者を増やすため、地道な草の根活動、つまり口コミでの活動を行い、活動に理解をいただいた仲間となった方々と和気あいあいとしながら活動して、地道ながらも楽しく活動し、そのような楽しむ姿で魅力を発信し、そのようにしてメンバーを増やして、自分ができることからできる人は、できる時間に、できる範囲で無理のない活動が可能になったり、負担も軽く、気軽に参加、そして活動の輪が広がり、活動が地域に定着化して、活動の裾野の拡大につながりました。この取組は決して派手な活動ではありませんが、小さな和から一歩を着実に誠意を持って取り組んだ結果、皆さんから理解を得られ、大きな輪へと実を結んだものだと考えています。

今御紹介した見守り活動の他に、パトロールも大きな課題がありました。従来は限られたメンバーが徒歩で防犯パトロールをやっていたのですが、特定のメンバーに大きな負担がかかっていました。そこでまずは役員を中心に、平成28年に青色パトロール隊を結成し、実施頻度は原則毎週2回、時間帯や巡回場所も過度な負担にならないようにして計画を立てて、見せる活動を開始しました。そうしたところ、それを見た地元住民から青色パトロールに理解を示してくれる方々が出てきました。そして、平成28年から活動を始めていた青色パトロール活動ですが、現在も原則として週2回、初夜帯下校時間の見守りにも、2人1組で巡回を継続的に活動しています。青色パトロールは継続することが大切ですので、今後も無理のない範囲で息長く続けていければと考えております。

昨年は新型コロナウイルスが猛威をふるう中、街頭でのキャンペーンがなかなか難しくなり、残念ながら活動範囲も限られていましたが、最近の活動について御紹介いたします。

2カ月に1回の年金支給日には、毎回地元の清水町郵便局、大泉郵便局、北陸銀行清水町支店で、特殊詐欺被害ゼロ地区運動のキャンペーンを行ったり、年末には地区の餅つき大会で、子供たちとふれ合ったり、東町交番三者合同巡回という活動も継続しています。これらの活動は、私1人ではとてもできるものではなく、仲間の理解があったからこそできるものです。みんなで和気あい

あいとやっているから継続できるものであり、地区の方々も協力してくれるものだと思います。そして、それらの仲間は、それぞれの地区内のまた違う機会、場所でも防犯の呼びかけを発信してくれていることにより、防犯の輪は、まさに地区ぐるみの活動となっていくものだと思います。

清水町には20の町内会があり、各町内会から役員を選出していただいておりますが、防犯意識が町内の皆様に浸透するように、原則として防犯役員には各町内から2名での参加をお願いしております。各町内の事情により必ずしも叶わない場合もありますが、そうすることによって、次世代に防犯意識が強く受け継がれていくようになればと願っております。

私たち地域の安全安心のため、自分たちに何ができるかを考えたときに、今後も防犯の活動が受け継がれ発展していくこと、つまり次世代にも伝わるような活動を大切にしてきました。防犯活動の基本は、何と言ってもマンパワーです。活動を理解し積極的に参加していただくメンバーを確保することが第一歩であり、そのためには小さな和から大きな輪へとという至ってシンプルな考えに基づいて、同じ気持ちを持つ仲間を増やし、仲間と手を取り合って地道に楽しく活動するということを中心してきました。地域の安全安心という大きな成果は、一人一人の小さなアクションの積み重ねから生まれてくるものだと信じております。その小さな積み重ねがいつか大きな力になり、地域ぐるみの活動につながると信じています。

私たち清水地区防犯組合連合会は、これからも地域住民の力を合わせて、防犯活動に取り組んでまいります。そして最後になりましたが、コロナが収束した暁には、雄大な立山連峰と日本海の海の幸、自然豊かな富山に皆様をお迎えできるように、安全安心なまちづくりに邁進いたします。御静聴ありがとうございました。

講評

高沢 動画を通して貴重な発表をいただきました。まず、清水町地区の特色としましては、繁華街が近い。私も地図で調べたところ、桜木町という所が近いということで、繁華街が近いとやはり警戒すべきポイントというの、発生してくるといふ事情もあるかと思えます。また幼稚園保育所も点在しておりまして、小学校以外にもそういったポイントがあるという印象でした。

課題に挙げられておりましたところ、1つは活動メンバーが固定化しているという問題が挙げられておりました。これは事前に質問を頂いた点でもあるんですが、特定のメンバーに負担がかかっている。それはパトロールの件でもそうである。特定の人だけがパトロールに行き、もっとメンバーの中でもたくさんの人にパトロールに参加してもらうには、どうしたらいいかということもあるようでした。それに対していろいろ私のほうも、心理学の観点から考えたことがございますので、せっかくですので共有させていただきます。まず、何かを行いたい、あるいは継続したいという気持ちは、心理学的には動機付け、モチベーションということになります。それをどう高めるか。ここでは4点、その仕掛けになりそうなこととお話させていただきます。

まずは、その行動の重要性というものをしっかりとお伝えするということです。それから説得するということになります。重要性がうまく伝わるようにメッセージを投げっていくということですね。では、説得はどうするのか。重要性というのはいまう字面のとおりです。うまい説得は、周辺の方ですとか、あるいは権威ですとか、そういった方から話していただくのが一番いい。我々横のつながりで話す、これも大事ですが、上の人からということも効果がある。鶴の一声というところで

す。また説得のポイントとして、動機付けの低い人に対しては、「あなた自身が魅力なんです」というようなメッセージを投げます。「あなたしかいないのでお願いします」ということですね。そういったメッセージの投げ方です。他にも付加価値ですね。足腰の運動、鍛錬にもなるんだ。実際そういう声があるんだということを説明していただいたり、また、ユニホーム、腕章といったものも当然導入されていると思うんですが、そういったことで組織の一員であるということを印象付けていくということが、説得のポイントになるかと思います。

また、活動の過激さですね。当然、寒い時期も暑い時期もありますので、例えば冬にカイロがあるとかそういったことも1つポイントになります。

もう1つ活動の履歴が見られるということが大事です。目に見えて、この人はたくさん参加している方なんだということが分かる。例えば、バッチが付くだとか腕章の色が変わるだとか、いろいろなやり方はあると思います。心理学的にはトークンエコノミーと言います。我々の生活の中で、例えば、薬局がスタンプカードをくれます。スタンプがたまると1個もらえるとか、そういった目に見えた成果があると、我々も「よし、もっとやっていくんだ」という気持ちになりやすいですね。

最後にもしかしたらモチベーションの低い方を見たときは、距離とか時間とかそういうことを気にされる方がいらっしゃるかもしれないと思います。そこで本来1人で回るべきところを2人に分ける、半分にするとか、そういったことで、まずは細切れにして簡単な活動で試しにやっただけというふうな作戦ですね。それで、参加回数というのは先ほどのスタンプですとか、何らかの履歴が見える形で喚起するというような工夫があります。あくまで心理学の観点からということで、会の事情に合致しないようなことも、今のお話であったと思いますので、1つでもお役に立てることがありましたらという形になります。

また、資料のほうに戻ってきますと、メンバー不足等々もありながら、口コミや個人的な交友関係を利用して、メンバーの確保に努力されてきたんだなというところがあります。私からはやはり大学で働いている人間の観点ですけれども、富山市では富山大学、富山大生という人たちがどれだけボランティアに来てくだろうかとか、やはり県庁所在地、国立の大学ですので、もしかしたら例えば教員ですとか警察官を目指しているですとか、あるいは公務員を目指しているという方がその中にたくさんいて、やはりそういった方々は学生のうちに社会貢献の活動しておきたいんだ、世の中を知っておきたいんだ、そして机の上での勉強ではなくて足で稼いで勉強したいんだという人も、一定程度いらっしゃいますので、そういった学生を社会資源として捉えて、掘り起こしというのは、すでにやられているかもしれませんが、私も重要な点じゃないかなと思っております。